

大阪湾に注ぎ込む幾つもの川の河筋に発達した大正内港など大阪の北港
その川筋をトラバースする生活道路として 今も市民の足として現役の渡し・渡船場
地名の記憶にはあるのですが、もう何十年も前…
ふっと思い立って 大阪港の川筋にある渡し(渡船場)巡りをしました

東北側 大正内港 背後に生駒山がかすむ手前 千歳公園 右端にアペノハルカスが遠望



2017.10.27. 大阪北港の渡し巡り 尻無川河口 大正内港に架かる千歳橋より周辺を眺める



大阪の街は淀川の河口に発達したいくつもの島や砂洲の上に発達した町。

高度成長期に沖に南港の人口島が造成されるまでは、港も工場もみんな河口から奥へ川岸に沿って広がり、川筋をトラバースするため、川筋にはいくつも渡し場がありました。この渡船は道路の一部なので、公営で無料で人と自転車が通行できる。

大きな橋がいくつも建設され、バス・地下鉄ができた現在も、対岸へ渡るには公共交通や橋を渡るより渡りで渡るのが一番の生活手段である事情はかわらない。



地図を見ると船が横付けされる工場群が川筋に並び、おいそれと橋が架けられず、高所を渡ってゆく橋を見上げれば、船の渡しの方がはるかに早く便利なのです。

自転車も一緒に乗れる渡しは通勤・通学・買い物そして近年は観光にも。



桜島から天保山へ渡る安治川河口 桜島側の天保山渡船場 2017.10.27.

私にとってはいつも頭の片隅にしまっておかれている場所。

大阪市に勤めていた父が、退職後2度の勤めで通ったのが、大正橋の木津川沿岸で仕事する小さな会社の集まりの協同組合で、「大正橋」「三軒家」「泉尾」「天保山」「築港」・「安治川」「市岡」「野田阪神」「九条」などの大阪港周辺の地名には今も親しみを感している。でも、その大半には名前ほど街中を意識して歩いたことがない。

また、大阪港の渡しには何度となく連れて行ってもらったが、その場所についての記憶もほとんどない。

みんな遠い小さなときの記憶で 名前・地名ほどにははっきりした記憶はない。

また、大学4年の夏現場実習で日立造船・築港工場に約1ヶ月通ったのですが、そのすぐ横にも船町の渡船場がありました。

インターネットで、大阪港の渡しのマップを見つけ、地図を引っ張り出して、今も残っている大阪港の渡し並びに港の街歩きをやってみたくと地図に 「自分の記憶を呼び起す大阪港の渡し巡りのコースを作りました。

大阪港の渡し巡りの WALK 快晴になった10月27日の朝 神戸を出て阪神電車なんば線に乗り、スタートに決めた JR 西九条駅へ。 一日大阪港の渡し場巡りで撮った大量の渡船場周辺の Photo。

またどこかで記憶を呼び起す材料になればと独りよがり的大阪港の渡し walk の photo album のファイルです。



神戸から阪神なんば線で西九条駅で USJ 人気の路線JRゆめ咲線終点の桜島駅下車 桜島駅から大阪港の渡しwalkをスタート

JR桜島駅 → 安治川天保山渡船 → 尻無川甚平渡船 → 尻無川河口北港千歳渡船 → 木津川運河船町渡船
→ 船町から市バス北側の恩加島へ戻る → 木津川落合下渡船(往復) → 木津川落合上渡船(往復) →
→ 大正通・泉尾からバスで北の三軒家経由JR大正駅

大阪港にはほかに

◆船町から木津川河口を渡る木津川渡船 ◆南恩加島から西成へ木津川を渡る千本松渡船
2つの現役渡船場も残っているが、今回は尻無川と木津川に挟まれた大正区の街中も歩きたくて、
バスしました。



大阪港渡船場巡り 2017.10.27. 現在も「道」として地域の足

【1.】大阪港の北西端 此花区の桜島から南の港区天保山へ安治川を渡る安治川渡船場
大阪港の渡し巡りの WALK 快晴になった10月27日の朝 神戸を出て阪神電車なんば線に乗り、スタートに決めた JR 西九条駅へ。そこから、JR 夢咲線に乗り換えて桜島へ。





桜島(此花区)側 天保山渡船場前 2017.10.27. 10:31



対岸 橋の向こう側が天保山(港区)の船着き場 また、その横天保山の浅橋には日本丸・海王丸2隻の帆船が停泊。大船港も開港150年のイベントが行われていました

安治川河口 桜島(此花区)側、天保山渡船場 2017.10.27.



15:30頃の遠航が告げられ別着 乗船するとすぐ出発した



渡船に乗って 安治川の対岸 天保山浅橋・海運館を眺める 2017.10.27.



渡船に乗って 安治川河口の出口 南側南港方面 2017.10.27.



安治川河口南側 天保山浅橋から南港



安治川河口 北の上流側 対岸の桜島側



安治川河口北の上流側の上流側 大船の市街地を眺める



天保山の渡船場 2017.10.27.



港区側



【2】 明治から昭和 外航船が接岸できる海港 埋め立てで建設された大阪港 大阪築港「天保山」



◎開港150年記念停泊中の日本丸・海王丸 ◎かつて日本一低い山として国土地理院の地図に掲載された天保山



【3】 天保山から港大通りを北へ 港区中央の街を歩いて朝潮橋から東へ尻無川渡船場へ





黄色の大阪ドームが見えてきて、地下鉄新南横の駅前に 11:35.
ここから右へ折れて奥へ、奥中を尻無川の甚平渡船場へ



尻無川 港区側 甚平渡船場 2017.10.27. 11:55

【4】尻無川の甚平渡船場 尻無川を東に渡って大正区北恩加島へ
そこから南へ町中を抜けて 北恩加島の南西端 千歳橋の袂 千歳渡船場へ



尻無川 港区側 甚平渡船場 奥向いが大正区側の甚平渡船場



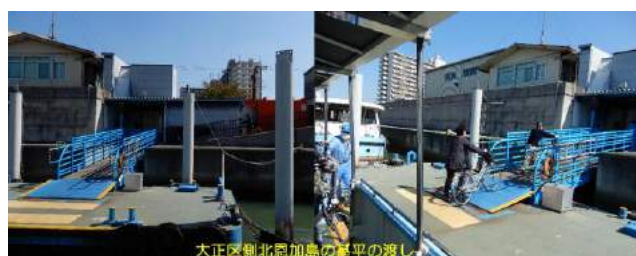
大塚環状線からかき見える尻無川のアーチ水門 こんな風だったのだ



渡船に乗って対岸へ 川中央から南側を眺める...12:02
尻無川の両側には川に沿って工場岸壁が並び、停泊した船の荷下ろしクレーンなどの機械が
忙しく働いているのが見える。



尻無川の水門の奥 大正橋の手前あたりでしょうか？ 川が右へカーブしているが、
その付近一帯の岸に貨物船でしょうか？ いくつも並んで停泊しているのがみえる。
大阪の港が今も川筋を遡って、奥に広がっていることがわかる。
平面をつなぐ低い橋が架けられぬ事情がよくわかる場所だ。



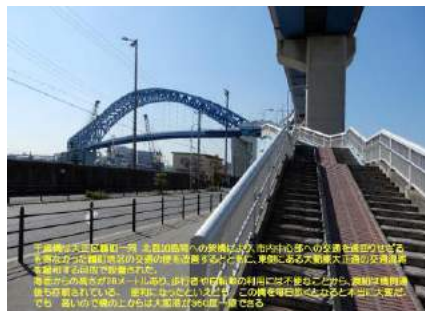
大正区側北恩加島の甚平の渡し



大正区側の甚平の渡船場
まっすぐ南北の広い通りに出るマンション群が立ち並ぶ住宅地。奥の側は緑地帯的。



【5】千歳渡船場の横から 同じく南の鶴町へ安治川の河口を渡る大きな千歳橋の歩道を歩く
非常に高い場所を渡る橋 生活道路として使う困難さの体験と大阪港の内向を高所から眺める





北摂加島から南へ木津川河口を南へ渡った鶴町側千歳渡船場 2017.10.27. 13:03
下ぐとの高層ビル群が目に映る。この高い橋を渡るのは大変だ



鶴町側千歳渡船場横から、今渡ってきた眺めた大阪北港(内港) 2017.10.27.



鶴町側 千歳渡船場 2017.10.27. 13:03



鶴町側千歳渡船場から南の船町へ木津川運河を渡る船町渡船場へ

次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買って、はくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。はっきりなしにバスが追い抜いてゆく。

次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買って、はくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。はっきりなしにバスが追い抜いてゆく。学生時代夏の1ヶ月工場実習で船町の造船所に大阪駅から市バスで30分だったかかけて、船町の工場に通ったときに、大正・泉尾・恩加島と大阪港の街中を抜け、工場街に入り、この鶴町の名前を知った記憶がある。船町もふくめ、街の記憶は全く薄れているが...



鶴町1丁目のバス停のところに船町渡船場の案内標識で南に折れてまっすぐ行くと船町渡船場。防波堤に突き当たる。私の記憶では船町は工場街にあるのですが、一帯を川と運河に囲まれ、防波堤と港を隔て、工場が取り囲み、出口は北のみの大阪港南側に大森の下町が広がっているのびく。



千歳渡船場から20分ほどで、木津川運河を南に渡る船町側船町渡船場 2017.10.27. 13:31
目の前に木津川運河が流れ、対岸の船町は中山製鋼の鉄の街

【7】鶴町の南側 木津川運河沿いの船町渡船場

大阪港(北港)の最南端 船町に渡し、西船町からバスで大正区の中央へ戻り、木津川川沿岸へ





船町側 船町造船場前の通り 2017. 10. 27. 工場地域の目下が、人の姿は全くなし
一度諦めたかった日直造船場工場前 訪ねておぼえている。でも、中は全く記憶なし。
候安へ行って、工場概要をお聴いたのですが、船と、白は造船の工場と、工場も大きく
変わりの、いまこころ、かつて船町にあった研究所があると、
ここにあった船町の工場です。もう遠い過去に・・・



西船町のバス停前 2017. 10. 27. 13:48
道が十字に北へ折れる角に市バスが見える
大正区側の標識に、かつて通ったバスと昔のことがよみえる



船町から大正区の大通りを北へ
大正区の東側を流れる木津川にある落合下・上の渡船場を巡りJR大正駅へ 13:52



Google photo



右側中山製鋼と書かれた建物
西船町バス停前

Google photo



東を木津川、西を釜無川に挟まれた細長い大阪北港の中心地大正区。
その南端、西船町から北の大正橋まで、大阪北港の中央を貫く大正通りをまっすぐ北に
バスで向かう。学生時代、大阪駅から西船町まで、工場実習で通った路線である。
北船加島の平尾町のバス停で下車。
そこから東の木津川と大阪の市街地西成区とを結ぶ落合下・上二つの渡船場を巡り、
大正橋へ戻って、今回の大阪造船場巡りの終わりにする。
船町は人家がない中山製鋼の鉄の街、バスは鉄の工場群の中を北へ抜けてゆく



木津川運河にかかる大船橋 木津川運河の先に船町造船場のあたりが見える

google

大正橋の交差点を過ぎ、南船加島にはいり、平尾のバス停で降りて、
木津川へ向かって前方の横断歩道を渡り、平尾の街中へはいる。13:55

Google photo

【8】大正区の中央 平尾のバス停で降りて、大阪港の一番東側を流れる木津川へ
木津川を東の市街地西成区へ渡る落合下・落合上渡船場



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場前 2017.10.27. 14:11



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場 2017.10.27. 14:17



西成区側 落合下渡船場



大正区から東の西成区へ木津川を渡る大正区側 落合下渡船場 2017.10.27. 14:17
もう少し大正区側を歩きたかったのですが、向かいの渡船場で降りずにそのまま引き返しました。



大正区側 落合下渡船場







大正区側 落合上渡船場のすぐ上流側に、左:三軒家川水門 右:木津川水門 2017.10.27.

【9】西の大正通りへ戻り、泉尾のバス停から JR 大正駅へ出て 大阪港の渡しwalk を終わる



大正区側 落合上渡船場から北へ 水門のあたりを見に行く

落合上の渡しも西成区側で下船せず、往復して大正区側から北へ 今回の大阪港渡船場巡りはこれで終わり。大通りにでず、木津川沿いに水門のあたりまで歩いて、それからJR大正駅に向かう。大阪港にある8の渡船場のうち6つをめぐることができました



アーチ型水門 河を閉じる水門はどこに 格納されているのだろうか？ 不思議で…………… 調べてみて やっとその疑問が解けました

アーチ型水門は実際に高潮から守るとき どんな風に閉まるのでしょうか？

巻き上げ機からワイヤーロープを繰り出し扉体を上流側に90度倒す

調べると皆同じで、安治川水門の場合の写真がありました



主水門閉鎖作業中



主水門完全閉鎖

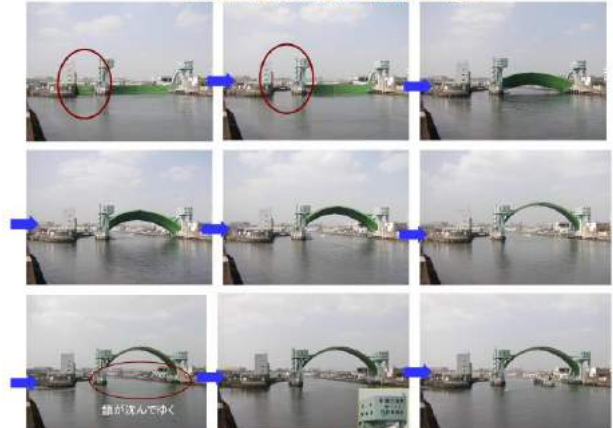


副水門閉鎖作業中



副水門完全閉鎖

《 木津川水門の閉鎖から開門までの例 》



<http://non-chan.sakura.ne.jp/Okkimono/Okkimon/VisorGate/VisorGate02.htm> より

大河 淀川にはアーチ型水門がないのに なぜ 大阪港の3河川にアーチ水門がいるのか？

大阪の港の3つの安治川・尻無川・木津川になぜ アーチ型水門があるのか、これらの川にはすべて高い防潮堤が張り巡らされているのに、なぜ 高潮対策の水門がいるのか??? と。よくわかりませんでしたが、水門構造・水門閉鎖の作業・水門構造を知って、それが理解できました。

これらの川の奥に内港があり、数多くの船が停泊している大阪。高潮が発生して、川を遡る潮から川筋の岸壁にいる船を守るのが主用途なんだと。

要は海岸の沖にある波けしブロックの役割と同じで、川を遡る高潮のスピードを殺すのが役割のようだ。

したがって、閉じられる水門は底にはついておらず、海水表面から上へ出ている部分が重要なんだと。

川の水位上昇を抑えるのが主目的ではなく、川を遡る潮のスピードを落とし、急速な川の水位上昇を緩和する目的だと。



したがって 狭い川筋に港がある大阪には重要なんだと。したがって 川幅の大きな淀川には防潮堤は完備されているが、アーチ型水門はないのだと。

間違っているかなあ???



